

学校だより



平成26年5月6日
No.3 尼崎市立尼崎養護学校

ゴールデンウィーク終了



遠足
として
体育祭が

ここ数日、天気予報では初夏を思わせる気候となりました。ゴールデンウィークも終わり、新年度からの疲れはとれましたか。

さて、行事の多い5月です。まずは延期になっていた遠足が今週の金曜日に実施されます。今回は曇りのち晴れで最高気温が23度と予報がでています。まずは一安心。そして体育大会の練習も始まります。

このゴールデンウィーク前から、先生たちは体育館の練習場所の準備に取りかかってくれました。あとはみなさんの『やる気』を連れてきて下さい。また、おうちの方の協力をもらいながら『体調管理』も必要です。さあ、47名が様々な行事で楽しみ、力を発揮してくれることを期待しましょう。

5月9日（金）尼養小・中・高、3学部合同の春の遠足が行われます。児童・生徒・先生・介助員さん・バスの乗務員さん・看護師さん、約140名が参加します。これだけの人が動くのですから、トイレ・休憩・食事等、いろいろなことを想定して係の先生は計画をしてくれました。

今、フルーツフラワーパークは春の花が色とりどりに咲き、春の香りでいっぱいです。自然の中で過ごす一日。どんな花に出会えるでしょう。



花とフルーツフラワーパークへ

尼養ホームページをご覧ください

本年度よりホームページが新しくなりました。学校生活の様子も含め、紹介していきます。ぜひご覧下さい。

HPアドレス

<http://www.ama-net.ed.jp/school/s01/>



5月の第2日曜日は母の日です。いつも子どもたちの健康を気にしながら、自分のことを後まわしにしても、子どものことを第一に考えながら寄り添ってくれる大切な存在の母。私は母の日が近づいてくると担任したクラスの学級通信で、この詩を生徒たちに紹介していました。

この詩は大人になってから幼い頃を懐かしく思いながら読み、味わう詩だと思っています。でも、あえて生徒たちに紹介します。

何度も読み進めていくうちに生徒たちも自分の母親と重ね合わせながらこの詩を理解していくようでした。

「やさしさ」や「ぬくもり」「信頼」…様々な感性でいろいろなことを感じ取ってくれるわけです。



母という字を

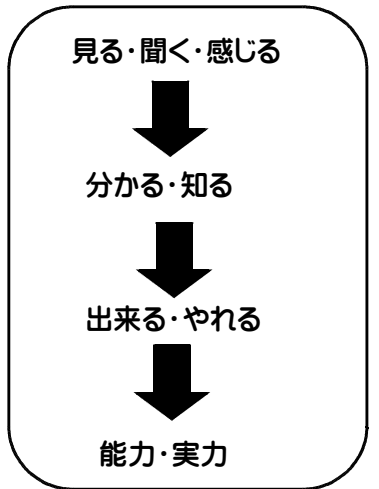
書いてごらんなさい

サトウハチロー

母という字を書いてごらんなさい
やさしいように見えて むずかしい字です
かっこうのとれない字です
やせすぎたり 太りすぎたり ゆがんだり
なきくずれたり……笑ってしまったり
お母さんにないしょですが ほんとうです

「わかることとできること」は違う

4月の学校だよりで「わかることとできることは違う」という話しを書きました。「わかること・できること」を考えると次のような構図があるように思います。



まず、最初に見ること・聞くことなど、いわゆる五感に届くものがあります。これは、感覚ですので、「言葉にしなければならない」とか「何かしなくてはいけない」ことはないのです。ただ、「見て聞いて感じること」がこの段階です。

次に、「分かること・知ること」があります。保護者や先生から教わったり、本で読んだり、テレビを見たりして得られた知識などです。学校で勉強して知識を得たり、技術を教わったりすることもこの段階です。

さらに、「できるようになる、やれるようになる」という段階があります。これは、知識や理解だけではだめで、実際に自分でやれなくてはなりません。やる事でできることや、やれることが増えるのです。失敗することもあります。しかし、そこであきらめず、それを乗り越えてこそ、できるように、やれるようになります。これは、スポーツなどをやっている人には当然のことです。でも、スポーツ以外のことにも言えるということをおそらく理解していないように思うのです。私が尼崎養護学校の皆さんにやってほしいのは、この「できる・やれる」レベルになることなのです。

失敗したりできなかつたりすることであきらめないうちに、できるように・やれるようになることが大切なのです。単なる知識や理解ではだめで、実際に何かを変えたり、生み出したり、教えたり、表現したり、創り出したりすることが大事なのです。そして、それができるようになって初めて、本人の「能力・実力」となるわけです。

今、大人の世界ではやりの言葉で言えば「コンピテンシー」（達成力）ということになります。経験を通して自信をもって成果を見通せる力のことを言います。

児童・生徒の皆さんの「できること・やれること」を少しでも増やし、本当の意味での能力や実力を身につけてほしいと願っています。

四季のある国に生まれ

『日本の七十二候を楽しむ』という本があります。それは日本には二十四の節気と七十二もの季節が紹介されています。私たちは小さい頃から春・夏・秋・冬の四季のある国と教えられてきましたが、太陽暦には二十四等分した細やかな季節の移ろいを取り入れたものや、自然のリズムに寄り添った七十二候があるようです。

ちょうど今の時期は、次第に夏めいてくる頃で、あおあおとした緑や、さわやかな風、そして五月晴れの季節です。「立夏（りっか）」とも言われるこの時期は夏の始

りをあらわしています。

(※ 立春や立夏など「立」がつくものは、季節の始まりをいいます。)

そう、5月5日の「端午の節句」もその立夏をあらわす行事の一つです。

尼崎市内の庄下川にはロープを張りたくさんの鯉のぼりを風に泳がせる祭りが行われていました。



